看護専門科目

分類		教科目番号	必修・選択 看護師教育	必修・選択 保健師教育選択者	授業科目	修得単位 第1学年		第2学年		第3学年	第4学年	計	授業時間数	必要取得単位数 看護師教育	必要取得単位数 保健師教育選択者	授業内容
看護専門科目	生活援助の基礎	54	○	○	看護学概論	2						2	30	11単位		看護学を学ぶ導入として「看護とは何か」を多様な視点から理解するために、看護の歴史を通して看護の専門職化の過程、看護の基本概念である人間、健康、環境、看護について教授する。さらに、保険医療福祉チームにおける多職種の役割および看護の役割と機能について教授する。
		55	○	○	看護ケア論		1					1	30			看護を実践する上で重要な概念であるケアリングについて、その概念とケアの本質を基盤として、看護におけるケアの本質を教授する。また、看護過程の構成要素とクリティカルシンキングについて教授する。さらに、看護理論家とその理論の特徴について教授する。
		56	○	○	看護過程				1			1	30			看護過程を展開するための基礎的知識、事例を用いた看護過程展開について演習を通して教授する。演習では、個人やグループワークで、模擬患者や記録から情報を収集し、分析・看護問題の抽出を経て看護計画を立案する。さらに、模擬患者に対して看護を実践し、結果を評価するという方法で教授する。
		57	○	○	フィジカルアセスメント		1					1	30			人間の健康な日常生活を支える身体機能に関する情報収集の手段であるフィジカルアセスメントを、頭から足先までの流れで教授する。アセスメント技術は、問診、視診、触診、打診、聴診や検眼鏡や耳鏡や打鍵器などの器具を用いて主観情報・客観情報を得る方法であり、アセスメント能力の向上を目指して演習する。
		58	○	○	生活過程援助論Ⅰ		2					2	60			人々の生活過程を健康の側面から援助する理論、援助技術を教授する。援助技術は、コミュニケーション、観察・記録・報告、バイタルサインズ、安全を守る技術などの「生活・治療過程に共通する技術」と環境・清潔・排泄・食事の援助などの「生活過程援助技術」から構成されている。
		59	○	○	生活過程援助論Ⅱ			2				2	60			人々の治療過程を援助する理論、援助技術を教授する。援助技術は、「生活・治療過程に共通する技術」と与薬と看護、検査と看護などの「治療過程援助技術」を中心に教授する。また「応用看護技術」では、様々な状況下にある人の事例を用いて既習学習を統合し看護を実践する基礎を教授する。
		60	○	○	症状マネジメント			1				1	30			症状や徴候をもつ人の体験を理解し、その人が体験している苦痛を軽減あるいは緩和し、その人自身の日常生活を継続出来るようにマネジメントするための理論と基礎知識を教授する。いくつかの症状や徴候を取り上げ、その発生機序やメカニズム、観察や援助の方法を学び、さらに個々に感じ方の異なる症状について、他者の症状の体験を理解し、マネジメントするための系統的な方略を教授する。
		61	○	○	家族看護論			1				1	15			家族社会学の講義と連動させて、家族看護の定義・基礎となる諸理論およびアセスメント・介入モデル等について教授する。また地域で生活する人々も含めた事例を用いて具体的な家族看護の展開を行い、対象の多様性に合わせた家族看護の役割・機能について理解を促す。
		62	○	○	精神看護学概論	1						1	15			精神看護学の対象、目的、援助の基盤となる考え方を教授する。具体的には、精神力動論、成長発達に伴う心の健康、人が生きて生活する上で被るストレスとストレスへの対処行動、健康障害がもたらす心理社会的反応、そして現代社会が及ぼすメンタルヘルスの影響について教授する。
		63	○	○	精神看護対象論				1			1	30			精神障害者とその家族を理解するための基盤となる知識を教授する。統合失調症、気分障害などの代表的な疾患と精神科薬物療法や精神療法、不安障害、パーソナリティ障害、森田療法などの治療と看護について教授する。家族が病気を理解し治療に参加する支援を教授する。学生は地域で暮らす当事者の生活を体験者の語りから学ぶ。
		64	○	○	精神看護方法論					2		2	60			精神障害者への個人療法と集団療法、そして家族へのサイコエデュケーションについて教授する。患者との関係性を構築する対人関係論を学び、演習を通してコミュニケーション技術、集団精神療法、SST（生活技能訓練）、サイコエデュケーションを修得する。VTRの事例の看護過程を展開し、演習を通して身につける。見学・実習を通して地域精神医療について教授する。
		65	○	○	母性看護学概論		2					2	30			母性の健康は、子どもが健やかに生まれ育つ基盤であり、その身体的、精神的、および社会的機能が順調に発揮できるための母性ヘルスケアについて教授する。母性の特性、母子の健康状態の現況、母性の健康を守るための社会的資源、女性のライフサイクル各期における健康問題・ヘルスケアの役割・援助方法や他職種との連携について教授する。
		66	○	○	周産期看護方法論Ⅰ				1			1	30			本講義では、妊娠・分娩期における女性の身体的・心理的・社会的適応について教授する。さらにこれらの知識をもとに、女性とその家族が健康で快適な妊娠期を過ごし、安全で満足な分娩を経験することができるよう、もしくはハイリスクにある場合にはそれを解決および援助するために必要な、知識・看護技術・医療従事者としてとるべき態度を教授する。
		67	○	○	周産期看護方法論Ⅱ					1		1	30			本講義では、女性の産褥期における身体的および心理・社会的適応変化、新生児の生理的特徴とその経過について教授する。また褥婦と新生児およびその家族が、健康で快適な生活を送ることができるよう、もしくはハイリスクにある場合にはそれを解決および援助するために必要な、知識・看護技術・医療従事者としてとるべき態度を教授する。
		68	○	○	小児看護学概論		2					2	30			小児の成長発達と健康増進のために小児と家族に対して必要な生活援助および小児看護学の概論について教授する。具体的には、子どもと家族の捉え方、子ども観の変遷、子どもの置かれている状況、小児統計、児童憲章、児童の権利に関する条約から小児と家族について教授し、さらに小児の成長発達、発達段階ごとの生活と援助について教授する。
		69	○	○	小児看護方法論Ⅰ				1			1	30			健康を障害された小児とその家族に対する看護の基礎を教授する。総論として、健康問題・障害の段階と入院および入院に対する反応と影響因子、快適な入院生活に向けた看護、家庭療養中の看護等について教授する。さらに健康を障害された小児の発達段階および病状の経過ごとの看護や基本となる看護技術を教授する。
		70	○	○	小児看護方法論Ⅱ					1		1	30			健康を障害された小児とその家族に対する看護の基礎を、手術を要する状況や活動制限を要する状況、隔離を要する状況など小児と家族がおかれるさまざまな状況ごとに教授する。また、教室内実習においては、小児の特徴をふまえた基本的な技術について教授する。さらに、事例を用いて小児看護学領域における看護過程の展開を教授する。
		71	○	○	成人看護学概論	1						1	15			成人期ヘルスケアの概論を主に教授する。成人期は10代から60代までとライフサイクルのなかでも、長い期間を占める。また結婚や就職、子育て等さまざまな大きいイベントを経験しながら自己実現をはかるという、活動的で生産的な時期である。長期にわたる生活習慣の偏りや生活環境や仕事に伴うストレスなど健康障害に陥る危険性も大きい。このような成人期にある人々の特徴や発達課題について教授するとともに、人々の健康問題および疾病の予防、病気を持ちながら生活するにはどうしたらよいかなど、保健、医療、福祉についても教授する。

看護専門科目	生活援助の方法	72	○	○	周手術期看護方法論			1			1	30	34単位	成人期にある人々の健康障害と医療との関わりについて教授し、医療を必要とする人々に対して、どのような看護が必要かを考えていく。特に、急性期・周手術期・クリテイカルケアに有用な看護理論-危機理論、ストレス・コーピング理論、生体侵襲論等を応用しながら、術後合併症を予防し回復を支援するために必要な、手術前・中・後患者・家族の看護過程について教授する。特に、術後にみられる特徴的な病態とその治療、ケアの方法について、その根拠を踏まえながら教授する。
		73	○	○	急性期看護方法論				1		1	30		身体的侵襲の大きい各手術を受ける患者と家族に対して必要な観察と適切な看護ケアについて学習する。このような状態にある患者や家族は、生命の危機を感じ究極の心理状態となり、看護者は心理面でも対応が重要であり、これらについても教授する。具体的には、急性期において特徴的な病態（脳神経障害・呼吸障害・循環障害・急変時の対応等）と看護ケア方法を教授する。成人看護実践論で学習する急性期に必要な看護技術と連動させ、技術のエビデンスについて考察できるようにする。
		74	○	○	慢性期看護方法論			1			1	30		長期にわたり生活過程のコントロールを必要とする人の看護について学ぶ。人の一生を通して病気とともに生活するための生活の再構築と、症状コントロール、セルフケアなどに関しての対処行動がとれるような生活過程援助について教授する。また症状悪化時の入院に伴う看護と社会で生活するための支援者としての家族や社会資源の活用方法についても教授する。これらの看護に有用な概念として、病みの軌跡、セルフケア理論、ストレスコーピング等を適用して病気とともに生きる人々の心理的サポートについて教授する。
		75	○	○	がん看護方法論				1		1	30		成人期の健康障害のなかでがんの患者数は増加している。がんの治療の特徴である、化学療法、放射線療法、集学的治療等と看護についてまたがん患者の心理的特徴とそのサポート等について教授する。がんサバイバーシップ、社会資源の活用等についても教授する。さらに緩和ケアや人生の最期を支えるケアについて、患者・家族を含めて教授する。また長期にセルフケアの必要な患者を支える看護技術等について演習を通して教授する。
		76	○	○	成人看護実践論				1		1	30		健康問題への治療を必要とする患者とその家族に対する実践的な支援の方略として、知識やフィジカルアセスメントを活用した看護計画の立案による問題解決思考と、それに基づいた看護援助技術を看護過程の展開と演習を通して教授する。学習内容は、成人期の特徴をふまえた模擬患者の事例から、病の軌跡に合わせた支援(急性期の健康レベルにある患者、セルフケアの習得やライフスタイルの再構築を重ねながら生活をする患者、終末期にある患者、患者を取り巻く家族を含めた重要他者への支援)を具体的に計画立案・実施できるものとする。
		77	○	○	老年看護学概論	2					2	30		ライフサイクルの観点から老年期の人々の特徴を理解し、加齢に伴う生理的な身体機能変化が高齢者の健康と生活に与える影響について教授する。また高齢者のヘルスケアニーズに対応した制度政策の概要を説明し、高齢者の自立支援システムにおける看護の役割について教授する。
		78	○	○	老年看護対象論			1			1	30		老年看護の対象を理解し、高齢者ケアにおける原理と倫理を基本とした看護の展開方法について教授する。具体的には、高齢患者に多くみられる徴候とそのアセスメント、またセルフケア能力や認知能力が低下している高齢者の人権擁護とQOLに焦点を当てた看護アセスメントについて、学内実習を取り入れながら教授する。
		79	○	○	老年看護方法論				1		1	30		高齢者の健康障害の特徴と治療過程における看護援助の基本的知識と技術を教授する。特に手術療法や薬物療法を受ける高齢患者の看護、褥瘡発生予防のための看護、麻痺、失語などの障害を有する高齢者の自立支援を重点的に教える。また在宅や施設における高齢者看護の特徴と役割や要介護高齢者の家族に対する支援についても教授する。
		80	○	○	地域看護学概論		2				2	30		公衆衛生の理念に基づいた地域看護の理念や歴史，機能，役割をについて教授する。活動の特徴を理解する。理念に基づき，時代背景に即して変化する保健医療福祉の変遷の関連性から現行のヘルスケアシステムで機能する地域看護活動の意義を教授する。また，保健師固有の活動である地区活動の目的や対象のとらえ方および活動の展開方法を通して地域における看護活動の特徴を教授する。
		81	○	○	地域看護対象論			2			2	30		対象の発達段階および健康課題の特性に応じた保健福祉対策と地域看護活動の方法について教授する。発達段階や健康課題に関連する法制度や施策，およびそれらを背景に展開する育児支援，生活習慣病予防，介護予防，精神障害者・難病患者への支援，感染症対策など地域看護活動の基本的な考え方と方法を教授する。企業や学校など特定の人口集団における発達段階や健康課題における看護活動についても教授する。
		82	○	○	地域看護活動論Ⅰ			2			2	30		地域看護概論および対象論で学んだ地域看護技術および地域看護活動の背景となる法制度上の位置づけと，それらを駆使して多様な発達課題や健康課題上のニーズをもつ人々への看護過程の展開方法について教授する。個人・家族・集団・組織の健康課題を明らかにしその支援計画を作成することを通して地域における看護過程について教授する。ニーズに応じて様々な他職種・地域住民らと連携あるいは協働しながら展開する活動方法やマネジメント方法についても併せて教授する。
		83	○	○	地域看護活動論Ⅱ				2		2	30		地域看護活動論Ⅰで学んだ地域における看護過程を活動場所の特性や地域特性に応じて展開する方法について教授する。保健事業の実際について主体的に体験し考察した内容をセミナー形式で討議することを通じて，これまで学んだ地域看護活動の原則を確認する。この学びを基盤に，活動場所の特性や地域特性によって顕在・潜在する健康課題が異なることやそれに対する支援方法の特徴について教授する。特徴ある地域や集団を対象にした支援計画の立案演習を通じて，地域特性に応じた看護過程の展開方法と地域住民や他職種との協働・マネジメントの方法を教授する。
		84	○	○	在宅看護学概論			2			2	30		健康に障害を持つ人々が、自宅での療養生活を安全・安楽に継続していくために必要な看護の基礎的知識・技術と療養者・家族を支援する在宅ケアシステムの概要について教授する。具体的には、在宅ケアを推進する社会的背景と関連する法律・制度、療養者の健康障害とそれにともなう生活上の問題、家族介護者の介護に伴う問題、在宅ケアシステム（事例でケアプランを立案）、訪問看護の基礎的知識と技術、ケアサービス利用者の権利擁護とケアサービス提供者の職業倫理、在宅でのリスクマネジメント、海外の在宅ケアと日本の比較である。
		85	○	○	在宅看護援助論				2		2	60		在宅で医療管理を必要とする療養者とその家族介護者が、安心して在宅療養を継続するために必要とされる看護援助の基本を教授する。学習内容は、訪問看護利用者の事例（慢性呼吸器疾患で在宅酸素療法を受ける療養者、パーキンソン病で、経管栄養、膀胱留置カテーテルの管理が必要な療養者、在宅精神障害者、がんターミナルで中心静脈栄養法と疼痛の管理が必要な療養者、ALSで人工呼吸療法を行っている療養者）の健康障害と在宅での医療ケアの実際、利用者・家族介護者への看護援助の実際である。各事例について、療養者、家族介護者、訪問看護師の３者をロールプレイする。

看護専門科目		86		○	公衆衛生看護活動論			2			2	30		4単位	地域の生活集団を対象に展開する看護基本技術である地区診断の展開技術を，演習を通して教授する。 地区住民の健康課題につながる情報を，既存データ･地区視診から抽出･整理し意味づける考え方を教授する。さらに，これらからわかる地域の状況をまとめ，健康課題を明確にし，地区活動計画立案を試みる方法を教授する。活動計画立案においては，保健師活動の評価の視点を理解し，個人･集団各々を対象にした具体的な活動展開方法を示すことができるようにする。
		87		○	公衆衛生看護管理論			2			2	30			地域の人々の健康に関わる事業･制度などの立案･管理のための根拠となる法や条例、組織の基本方針、予算のしくみ、関係部署との協働や人材調達など地域看護管理活動に必要な基本的知識について教授する。 まず，地域看護管理者の役割と地域看護管理の特徴を教授する。特徴の一環として，健康危機（感染症･災害時）管理の対応について併せて教授する。その上で，地域の健康課題の施策化や資源開発のプロセスを教授する。
	生活援助の実践	88	○	○	生活過程援助実習Ⅰ	1					1	45		22単位	患者の生活および入院環境を知り、看護師が患者とどのように関わっているか、また、生活過程を支える看護活動として実践している活動にどのような事があるかを看護師と行動を共にさせながら教授する。また、病院内で患者を中心に活動する保健医療チームの人々を知り看護の役割を考えると共に今後の学習に活用させる。
		89	○	○	生活過程援助実習Ⅱ		2				2	90			受け持ち患者の健康障害に伴う基本的欲求の変化を理解し、援助の必要性を判断し、生活過程援助技術を指導のもとに実践し、評価する。これらの一連のプロセスである効果的な対人関係を基盤とした看護の実践を通して、思考過程や援助技術について教授する。
		90	○	○	精神看護学実習				2		2	90			主に統合失調症、65歳未満の対象の看護実践を教授する。コミュニケーション技術の修得、対人関係発展の技能、自己の振り返りをスーパービジョンを通して教授する。文献を活用したEBNを教授する。
		91	○	○	母性看護学実習				2		2	90			妊娠･分娩･産褥期および新生児期の母子とその家族に対し、看護過程を展開するための基礎的実践能力を養うことを実習目的に掲げ、産婦人科外来と病棟にて実習を行う。 外来では、妊婦健診に同行し、妊娠期の看護を中心に教授する。病棟では、主に産婦、褥婦および新生児を受け持ち、各期の看護について教授する。
		92	○	○	小児看護学実習				2		2	90			健康のさまざまな段階にある子どもを、一人の価値ある存在として理解するとともに、子どものもつ可能性を最大に引き出せるよう、対象の必要に応じた援助について教授する。小児病棟における実習では、受持ち患児の看護過程を展開し、実践を通して知識と技術について教授する。さらに、外来実習、通園施設実習を通し、対象の多様性を踏まえた援助法について教授する。
		93	○	○	成人看護学実習Ⅰ				3		3	135			長期にわたる疾病や障害をもつ患者の身体的、心理的、社会的状態、患者ならびに家族に対して生活調整･再構築のための援助について教授する。患者の発達段階や生活歴を踏まえた上で、疾病や障害に応じた適切な援助法、患者に行われる検査、治療の意義･方法、患者および家族の生活調整あるいは再構築に必要な援助法を教授する。受け持ち患者の看護過程の展開を通して、人間の尊厳と人権の意味、それを擁護する援助法を教授する。また対象とのよりよい人間関係を形成する。退院後をイメージした、継続看護を考える。
		94	○	○	成人看護学実習Ⅱ					3	3	135			クリティカルケアを必要とする人、あるいは周手術期にある人を対象にした看護の実践について教授する。高度の侵襲により身体的、心理的、社会的に急激な変化を受ける患者と家族に対しそれぞれの段階に応じた看護を教授する。また患者の発達段階や生活歴を踏まえた上で、疾病や障害、検査･治療の意義･方法に応じた適切な援助を教授する。ICU、手術室実習を取り入れ、クリティカルケアを必要とする患者の状態、入院期間の短縮により入院から退院までの継続看護、さらには人間の尊厳と人権の意味を確実に理解し、それを擁護する援助方法について教授する。
		95	○	○	老年看護学実習Ⅰ				2		2	90			慢性期病棟および回復期リハビリテーション病棟に入院している高齢患者のケアを通して、病院から地域への継続看護に必要な看護実践方法を教授する。また高齢者の心身の特徴を踏まえ、高齢者の自立支援に向けたチーム医療のあり方と看護の役割について教授する。
		96	○	○	老年看護学実習Ⅱ					2	2	90			介護保険制度における居宅サービスおよび地域密着型サービス、地域包括支援センターを利用している要介護高齢者のケアを通して、高齢者や家族支援に向けた多職種連携の実際と看護の役割について教授する。また認知機能が低下している要介護高齢者との効果的なコミュニケーション技法について教授する。
		97	○	○	地域看護学実習		1				1	45			地域住民の健康と生活を支援する上で地域における看護専門職が果たしている機能を，様々な地域生活集団を対象にした活動の現状から理解し，そのあり方を考えることを目的としている。職域や学校および保育の場におけるヘルスニーズを理解し，ヘルスプロモーションの理念に基づいた個･集団各々への支援の方法を教授する。さらに，他職種との連携や協働および協働のあり方についても教授する。
		98	○	○	在宅看護学実習				2		2	90			在宅で療養する人々が、安心して療養生活を継続するために必要な看護援助の基本、および療養者と家族を支援する在宅ケアシステムの実際について実習する。在宅療養者の健康障害と本人･家族の生活への影響、療養者が在宅での生活をおくるために必要な援助、療養者･家族への適切な看護技術の方法、在宅ケアシステムとチームケアの実際を教授する。
		99		○	公衆衛生看護学実習					4	4	180		4単位	公衆衛生看護活動の実際を体験することにより，地域で生活している人々の特性および健康上の問題を理解し，地域特性に応じた問題解決方法と公衆衛生看護のあり方を学ぶことを目的としている。保健所･市町村保健センターにおいて，保健事業への参加･家庭訪問･健康教育･地区診断を実施することを通して，個人･家族･地域生活集団の生活や健康問題の多様性，および健康問題と社会的背景の関連を学ぶと共に，地域生活集団を対象とする地区活動の展開方法について教授する。さらに，保健医療福祉システムにおける保健師および他職種の役割･責務･機能を理解し，関係職者や住民との連携･協働の意義･必要性を学ぶ。これらを通じて，地域住民の健康レベルや生活の質をより向上させるための地域における看護の専門機能について教授する。
		100	○	○	看護総合演習Ⅰ	1					1	30			「自分をみる、他者をみる」をテーマに、初年度ゼミとして大学で学ぶためのスチューデントスキル獲得や、自分や他者をみてセルフマネジメントするためのゼミを通して、学生は自分自身の将来像をイメージしながら看護専門職者として学ぶことや自己成長の意義を考察する。看護の責務や可能性を知るためにゼミ形式として、個別のポートフォリオを活用し教員のフィードバックをしながら、学生の主体的学習がすすめられるよう教授する。
		101	○	○	看護総合演習Ⅱ		1				1	30			「看護の対象をみる」をテーマに、看護専門職として看護の対象を理解し看護活動をするために必要な主要概念（パートナーシップ、コミュニケーション、共感、不安、倫理的態度など）について、ケース分析を通して理解できるように教授する。そのプロセスを通して、学生の主体的学習態度、クリティカルシンキング能力やコミュニケーション能力および倫理観を涵養できるように教授する。

看護専門科目	看護の統合と実践	102	○	○	看護総合演習III			1				1	30	12単位			「看護の技術（わざ）をみる」ことをテーマに、3年前期には、実際の臨地体験を基に、ゼミ形式で看護計画を立案し、発表と討議を行う。その過程を通して、学生自身が、科学的原理に基づく批評的な思考態度により創造的に問題解決を図り、意図的に看護介入することの重要性を理解できるように教授する。3年後期の総合実習前には、模擬患者を対象とした客観臨床能力試験（OSCE）を実施する。
		103	○	○	看護総合演習IV						1	1	30				「看護の役割をみる」ことをテーマに、4年後期に、それぞれの学生のそれまでの臨床における経験を活かしながら、医学科との共修で倫理的課題、患者-医療者関係、チーム医療とは何か、について検討し、自分自身の考えを明らかにする。授業は演習形式ですすめ、ロールプレイやディスカッションを通して体験を振り返りながら自分自身の課題として学修する。また、チーム医療構築ワークショップへの参加を通してチーム医療における看護職の役割を考察できるよう教授する。
		104	○	○	総合実習						2	2	90				総合実習は、4年前期までに学習した知識と技術を統合する総まとめの実習として位置付ける。この実習は、学生が主体的に科目を選択し、複数の患者の看護計画立案・実施・評価を体験したり、夜間における患者の観察など、管理的要素を含んでいる。 また個々の実践能力の弱みを補完する実習でもある。
		105	○	○	看護情報管理論		1					1	30				医療・看護には多くの情報が存在している。看護者には、それらの情報を自分の目的に則して収集・整理・統合する能力が必要である。また、看護の質を高めるために、情報の共有化と分析、看護の効率化を目指した情報システムへの参加と活用は不可欠である。本科目では、看護の学習ならびに実践・管理の実践の際に必要な情報活用の基礎的な知識・技術を教授する。
		106	○	○	看護マネジメント			1				1	30				看護の質を高めるためには、行政、組織及び個人が担う役割と機能について理解することが必要である。本科目では、看護制度および看護政策の変遷を概観し、看護の質を高めるために必要な制度および政策を教授する。さらに、看護マネジメントの実践において重要である看護管理者の役割と機能、 看護の質管理プログラム（安全管理を含む）、多職種との協働における看護師としてのメンバーシップとリーダーシップのとり方、看護師のキャリアパスについても教授する。
		107	○	○	研究方法論				2			2	30				本科目では、看護研究を行うための基礎的知識を教授する。具体的な教授内容は、看護学における研究の必要性と意義、倫理的配慮の必要性と方法、研究プロセスの全体像、文献検索と分析的評価の必要性と方法、研究課題を解決するための様々なアプローチと研究課題にあった研究方法を選択することの重要性、研究論文の作成と発表の方法である。また、学生は関心のある課題についての文献検索と検討を通して、研究課題を見出す方法を学んだのち、関心のある研究課題について研究計画書を試作し、研究計画立案の方法を学ぶ。
		108	○	○	看護研究					2		2	60				看護研究は、看護学の講義・演習および臨地実習を通して、新しい知識の発見への興味と研究的態度をもち、研究を必要としているテーマを見出し、研究指導者のもとで研究計画を立て、実施し、研究論文をまとめる。
		109	●	○	感染看護論			1				1	15	3単位以上	1単位以上		感染症患者および易感染患者の心理社会的反応に対し、看護師はいかに対応するのがよいか教授する。また代表的な感染症の主な症状、病態に基づく看護と感染症および易感染患者に関する管理の基本を教授する。さらに，地域における，平常時の感染症予防活動(HIV感染者を含む)と感染症発生時の健康危機管理活動について教授する。
		110	●	●	リハビリテーションケア論			1				1	15				リハビリテーションケアの対象となる人々を理解するための視点と援助の概要について教授する。具体的には、リハビリテーションの基本と考え方、急性期・回復期・維持期のリハビリテーション看護についてである。
		111	●	●	国際看護論			1				1	15				国際的医療ケア活動の歴史的経緯を通し、現在の国際医療ケア（Global Healthcare）が遭遇している問題や課題に視点を当て、看護師の国際医療活動への将来的参加活動の役割とリーダシップのあり方を教授し、国際医療ケアに関する坐軸を高める。
		112	●	●	国際看護実践				1			1	30				他国の看護をシャドーナースなどで体験的に学び、看護を文化的・宗教的・人種的な視点から検討することを教授する。在日外国人の看護を実践する上で重要なその人の価値観を尊重することを教授する。海外看護体験、討議、文献検討を行い、将来、国際的な看護師となる動機付けを高めることを教授する。
		113	●	●	災害看護論			1				1	15				本講では、看護職を志すものが必ず身につけておきたい災害看護の基礎知識および必要な技術を教える。さらに「生き延びるサバイバル」について考え、そのための日常からの備えを考察するとともに、看護職が果たす役割と機能および国内外の看護活動にも目を向けるよう教授する。
		114	●	●	救急看護論			1				1	15				救急患者に適切な看護を提供するために、救急医療の概要、救急患者の特徴と病態、それらをもたらす病態と症状、必要な治療や看護ケアを理解するとともに、救急医療における看護師の役割とその重要性を考察する。実際に臨床現場で活動している救急認定看護師や医師の現状や役割、多彩な病態と治療選択や看護について教授し、生命危機状態にある患者と家族の心理状態と心のケアの必要性や、脳死と臓器移植について考察する。
		115	●	●	クリティカルケア論						1	1	15	2単位以上			クリティカルケアが必要な人は、生体の内部環境が急激に変化あるいは侵襲を伴う治療処置（手術的治療）を受け生命が不安定な状況にある。そこで、生命の安全を確保し苦痛の緩和・安寧の維持、合併症・機能障害の予防と回復への支援が重要である。本講では、キュアとケアを統合した教育内容として、生命維持のための、モニタリング機能、呼吸・循環管理、体液バランスの維持、急性疼痛の緩和方法、回復促進のためのポジショニング等の専門的知識と患者の権利擁護を含めた援助方法について教授する。
		116	●	●	緩和ケア論						1	1	15				すでに学んだ緩和ケアの基礎知識をもとに、死をどうとらえるか、望ましい緩和ケアの場とは、家族のケア、死にゆく人を支えるチーム医療等、実践を重視した緩和ケアについて考察し、自らの死生観をきちんと持ち、、他の学生の死生観を聞くことで多様な死についての考え方があることを認識し、終末期の看護について熟考する。さらに終末期患者の苦痛の緩和方法としての相補／代替療法について実践を通して教授する。
		117	●	●	創傷ケア論						1	1	15				創傷ケアの基礎的な知識を教授する。それにより、皮膚が未熟である小児、機能が低下している高齢者、疾患に伴って皮膚が脆弱になっている患者など、あらゆる対象に対し、創傷の予防的なケアができるように目指す。また、日常生活から終末期に至るまであらゆる場面で行われている創傷ケアの根拠の理解を促す。
		118	●	●	看護教育論						1	1	15				看護に携わる人々を育成する看護教育について、看護基礎教育と卒後教育の視点で看護教育の歴史的変遷、看護教育課程について教授する。諸外国の看護教育について概観し、看護の発展に向けて各自が展望をもち、参画するようになる。